

らいてうの会ニュース

発行
平塚らいてうの会
〒151-0051
東京都渋谷区
千駄ヶ谷
4-11-9-303
TEL・FAX
03-3401-6383

らいてうの思いを愛する
人びととともに

第九回総会報告

「らいてう忌」の心ゆたかなつどい



4月19日、東京でNPO平塚らいてうの会の総会を開催しました。今年は少し早めの「らいてう忌」を兼ねて岩波ホール総支配人の高野悦子さんの記念講演と地人会解散で上演できなくなった「この子たちの夏」にか

わって「夏の雲は忘れない」の上演運動にとりくんでいる柳川慶子さん（演劇集団 円）のお話があり、上田・真田からの参加者もふくめて多数ご出席、心ゆたかな会になりました。

会員拡大と寄付による財政基盤を

ひきつづく総会では、三年目の「らいてうの家」

をどう発展させるか、また全国の会員に支えられている会の活動をどう広げてゆくかを中心に、討議がおこなわれました。らいてうの家は今年も団体訪問の予約が相次いでいますが、運営については受付などの人手をすべて会員のボランティアに頼っているため、年間の交通費・ガソリン代・宿泊費等の個人負担がかさんでいることや、会員の高齢化傾向もあって先の見通しがむずかしくなっています。会自体も今年も赤字予算で、「基金」の取り崩しをしなければなりません。一方で訪問希望も多様化しています。今年も休館日に団体の学習や会合の要望があった場合、条件があれば受け入れることにしました（使用料あり）。会活動の基本は「会員・維持会員」の拡大ですが、同時にNPOとしては「寄付」によって活動してゆくほかありません。これらをふくめ「三年後、五年後のらいてうの家とわたしたち」という将来構想を話し合う会を持つことにしました。

「家」を愛する方がたとのつながりを大切に

今年も「家」を訪ねてくださる方が増えました。宝井琴桜さんの講演、中川美保さんのサクソフォン、そして中澤きみ子さんのヴァイオリンなど一流アーティストもボランティアに「家」で演じてくださいます。電子ピアノもご寄付いただきました

た。昨年に続いて岸田衿子さんも絵本展とお話を会をされます。リピーターも増えていきます。

総会では、このようにらいてうと「家」を愛してくださる方がたとのつながりを大切に、「家」をらいてうの思いを伝える場として、今年もがんばろうということになりました。好評の新展示「らいてうと博史」のパネルを、閉館後の11月に大津市にお住まいの令孫築添正生さんのお話を聴くつどいに運んで、関西の方にも見ていただく企画も進行中です。『紀要』も七月には創刊号を発行します。

らいてうの「九条への思い」をかたちに

5月に「九条世界会議」がひらかれ、世界中の人が「憲法九条こそ世界平和の原点」と話し合いました。らいてうさんが聞いたらどんなに喜ぶでしょう。その思いを受けついで今年も活動しよう、と約束し、今年度の理事21名、監事2名を選出して総会を終えました。（文責 米田佐代子）



上田市都市景観賞記念碑

上田市から受賞された都市景観賞のブロンズ像が、「らいてうの家」玄関前に据えられました。

2008年 らいてう忌

今年の「らいてう忌」には高野悦子さんと、柳川慶子さんをお招きしました。

高野悦子さんは岩波ホールの特約配人。映画「平塚らいてうの生涯」の制作発案、完成後は上映、普及に全面的に協力されました。深い思いをこめてのお話を要約でお伝えします。

*高野悦子さんのお話

私は日本女子大学に学びました。平塚らいてうさんがここを出たことは知っておりました。入学のとき母が送ってきて、校庭を歩きながら「いつかあなたはここに立つて感謝するときに来る」というようなことをいいました。

女子大を卒業して東宝に勤めましたが、映画を作りたくてフランスに留学するとき、らいてうさんの夫の奥村博史さんがつくられた指輪を三つ持って行きましたが、その指輪の一つを壊してしまいました。帰国後、その指輪をもって、また平塚



映画を見たあと、感想をのべる左から高野悦子、羽田澄子、瀬戸内寂聴のお三人。

家を訪ねました。そのときらいてうさんがお茶をしてくださいましたが、私はその佇まいの美しさにただ見とれていました。後年、母

が青鞥の読者でらいてうさんのファンだったことを知りました。

1998年4月4日、榎田ふきさん99歳のお祝いの会に出席しました。榎田さんと小林登美枝さんと、らいてうさんのお話になり、つい「映像を残すならフィルムです。お任せください」と言っ

てしまいました。監督をお願いするのは羽田澄子さんと決めていました。小林登美枝さんを中心に、日本女子大の学長・青木生子さんや、らいてうの研究家、らいてうさんを愛している方々が集まり「平塚らいてうの映画をつくる会」ができました。

瀬戸内寂聴さんはこの映画をごらんになって「らいてうはただならぬ人だった、目から鱗だった」とおっしゃいました。ほんとうに嬉しかったです。こうして、らいてうさんにも巡り会えて、今日はここでのお話もできて、若いときには笑えた「運命」とか「えにし」とか「強いご縁」という言葉がいま、骨身にしみています。映画の利益で「らいてうの家」への寄付と、日本女子大の中に「らいてう賞」が設けられました。これからも何かお役に立てたら嬉しく思います。

*柳川慶子さんのお話



柳川慶子さんは毎年8月、被爆の詩「この子たちの夏」の朗読劇を続けてきた女優さんの一人です。事情で劇団が

解散になりましたが、全国のファンの熱望にこたえ、あらたに18人の女優さんで「夏の会」を立ち上げ、脚本も「夏の雲はわすれない」1945

ヒロシマ ナガサキ」として構成しました。「63年目の夏、新しく生まれ変わった舞台」の公演予定、企画のとりにくみを熱をこめてお話しされ、ぜひ応援してほしいと訴えられて、いくつかの詩を朗読してくださいました。

この夏、らいてうの家がおもしろい！

——ご好意あふれる出演者がぞくぞく

「らいてうの家で演じたい」——一流アーティストの方々からこんなお申し出が相次いでいます。地元上田・真田らいてうの会では、「現地実行委員会」をつくってどのイベントも成功させようと奮闘中です。

*7月20日(日) 午後2時〜3時半
女流講談師 宝井琴桜さん

「平塚らいてう——博史とらいてう」千円

*7月28日(月) 午後2時〜3時半
サクソフォン 中川美保さん

「愛と平和のサクソフォンコンサート」
寄付された電子ピアノのお披露目もかねての演奏会です。千円

*8月10日(日) 午後2時〜3時半
バイオリンニスト 中澤きみ子さん

「真夏の夢のコンサート」この日だけ空いています。ボランティアでとのお申し出。

*8月23日(土) 午後1時半〜3時

これだけは上田駅前情報ライブラリーで。岸田衿子さん、古矢一穂さんと米田館長の「サロントーク」お茶付千円

3年目の植樹祭と 薬草園の山菜祭り

「すがすがしい自然と
すがすがしい人たちとの出会い」

5月25日、植樹祭りと山菜祭りを開催しました。前日は、熊崎さんのご指導でスタッフ4人が事前準備。毎年降られるのですが今年も夜中はしつかりと雨。当日の朝も合羽を着ての準備作業でしたが、まもなく霧雨に。霧の中を20人ほどの仲間とで鋤をふる約200本の苗木を植えました。今年にはブナのほかに、キハダとクリの苗木を植えました。みんな実のなる樹が好きなのかクリの苗木が早くななくなっていたのは気のせい？ 去年と一昨年に植樹したブナも元気に育ち、その隙間の地面からすくすくとタラの木が伸びて、まるで



昼食後、上田の青年が和太鼓の演奏をしてくれました。思わず飛び出して演奏に加わるみなさんでした。

タラの木林。一番芽のほとんどはもうとられていました。二番芽はちゃんと私たちを待っていました。

「霧が出ると晴れる」との地元の方の言葉通り、昼過ぎにはすつきりと晴れ上がった薬草園に戻って、真田や上田の会員のみなさんが用意してくださった美味しいお昼をいただきました。独活、タラの芽、行者ニンニクなどの山菜でんぶら、具のたっぷりが入った豚汁、美味しい地元米のおにぎりなどを堪能し、食後には口あたりの良い練りきりの和菓子とお抹茶を味わいました。

外では青空に映える白樺とカラマツの新緑の中、上田の青年二人が和太鼓を演奏、ソロで、掛け合いでと伸びやかな振りと撥さばきが楽しく、最後はみんなも演奏に加わりました。芝生の上でらいてうの家のステンドグラスの作家の山崎さんがお店開き、ガラスのネックレスを選んだり、オリジナルのペンダントを作ったりと時間が足りませんでした。薬草グッズも色々、生のハーブティーの味もさわやか。恒例の大きなシイタケは、あつという間に売り切れて残念の声も。

らいてうさんの願っていた自然と人との共生のあり方を探る森の講座も3年目になりました。らいてうの家を包むあずまや高原、菅平の自然を訪ねることによって、私たち自身の自然性が回復できるような、そんな森の講座を目ざしてこれからの企画も準備したいと思います。8月のらいてうの森の笹刈りとバーベキュー、10月18・19日の「きのこの学習と秋の高原ウォーキング」など、お楽しみに。

「森のめぐみ講座2」笹刈りと バーベキューの集い

8月24日(日) 10時〜 りいてうの森、らいてうの家の笹刈り

*涼しいカラマツの森の中での作業を楽しみませんか。刈るだけでなく、笹のかきよせなど色々な作業があります。らいてうの森の夏の様子を観察したい人もどうぞ。

作業の後は、温泉で汗を流しましょう。
12時〜 バーベキューで交流

*地元の新鮮な野菜などを味わい、交流しましょう。飛び入りの出し物も大歓迎、夏の思い出作りに。

(会場) りいてうの森、らいてうの家

錦秋の近江路で開催！

「らいてうのお孫さん

築添正生さんに聴く祖父奥村博史」

「家」で公開中のパネル展示や、米田館長「3年目のらいてうの家」のお話。

「源氏物語千年紀」にちなむツアーも計画中日時 11月15日(土) 午後2時より

会場 ピアザ淡海 滋賀県立県民交流センター

―(大津駅近く琵琶湖のほとり)
詳細は次号ニュースで。お楽しみに

シリーズ

らいてう再発見



右より母、らいてう、祖母、米次郎、父、姉
(大月書店刊「元始、女性は太陽であった」より)

平塚米次郎さんと関西の縁

らいてうの家の新展示「らいてうと博史」は好評で、日経、信濃毎日などでもとりあげられました。その記事を読んだ方からお電話をいただきました。らいてうのお姉さん(孝さん)と結婚して平塚家を継いだ平塚米次郎さんの姪にあたられる方です。「らいてうさんにお会いしたことはありませんが、幼少のころから両親の話を通してよく存じ上げています」というお話に惹かれ、米次郎さんのことを紹介します。

米次郎さん(旧姓山中)は、らいてうのお父さん定二郎さんと同じ和歌山の出身で、東大卒業後通信省(当時)に入り、大阪通信局長をつとめられた後大阪市電気局長に就任、一九三三年の大阪市営地下鉄開通などに尽力されたことで知られて

います。このとき「大阪地下鉄行進曲」「大阪地下鉄小唄」などを作詞されたのが米次郎さんでした。「水の都の地の底までも進む文化の輝くところ／拓く軌道は浪速のほこり／讃えよ地下鉄スピード時代」(行進曲)「恋の通り路北から南／急ぐ会う瀬の地下鉄へ／ナント結構な乗心地」(小唄)といったかろやかな歌詞です。「銀バス」と呼ばれた市営バスの運行開始時には「銀バス行進曲」も作詞されたとか。

姪御さんは「伯父は幼いころから学業にとってもまじめに励んだ人だったと聞いています。晩年もとても明るく磊落で、特に若い人達にむける熱いまなざしと激励のことが期待にあふれていて、私もよく励まされたものです」と語ってくださいました。戦前大阪市がプラネタリウムを設置するときは、かなり高額でしたが「平塚米次郎電気局長の英断によって」導入が決まったそう(大阪市教育局資料)、米次郎さんのお人柄をあらわすエピソードといえましょう。

わたしも子どものとき敗戦直後の大阪で、空襲にも焼けなかったプラネタリウムに感激、何回も通ったものでした。

平塚孝さんが長く夫の任地関西で暮らされ、そこで大本教に出会ったことが、のちにらいてうの取手への疎開や戦後のエスペラント学習のきっかけにもなったこと、今「家」で展示中の遺品も城ゆきさんたちにより戦後大阪で保存されてきたことなどを思うと、あらためて関西とらいてうのつながりを考えるよい機会になりました。

(米田佐代子)

〔事務局日誌〕

- 4月3日 事務局会議
- 4月7日 第2回理事会
- 4月11日 「らいてうの家」掃除
- 4月12日 羽田澄子監督の記録映画「終わりよければすべてよし」上映(於真田)
- 4月13日 羽田さんを囲んで懇談会(於真田)
- 4月15、16日 展示準備作業
- 4月17日 「家」オープンについて記者発表
- 第2回スタッフ養成講座
- 4月19日 2008年らいてう忌と第9回通常総会開催(於東京ウイメンズプラザ)
- 4月26日 「家」オープン
- 4月30日 事務局会議
- 5月8日 第1回常任理事会
- 5月13日 葉草園開山式
- 5月25日 森のめぐみ講座1 植樹と山菜祭り
- 5月30日 夏のイベント関係現地実行委員会
- 6月4日 「紀要」編集会議
- 6月13日 第2回イベント現地実行委員会
- 6月19日 第2回「紀要」編集会議
- 記録映画を上映する会総会に出席
- 6月22日 りいてう講座1 米田佐代子館長

*「獺」が全国女性建築士の会で発表

「らいてうの家」を協同設計したアトリエ獺「女性9人衆」の仕事が注目され、7月18日東京で開催される、全国女性建築士連絡協議会で発表することになりました。獺のみなさんおめでとう。